

入選

山登りの思いやり

奈良県 あすか野小学校
5年 西川心葉

ぼくは今年の春、鳥取県に行きました。旅行の目的は、「大山」に登ることでした。大山には、去年の8月にも登山ガイドさんといっしょに登りました。でも、台風で天候が悪かったため、7合目までしか行けませんでした。

今回は、ガイドさんに教えてもらったことを思い出しながら登山しました。「一步一步を確実に。」と、常に意識して歩くと、けが一つなく頂上まで登って、下山することができました。山では、何が起こるかわからないので、山にいる間はずっと、少しきん張して不安でした。でも、同じ山に登っている人たちから親切にもらったおかげで、最後まで歩くことができました。

登っている間は、とても苦しかったです。頂上まで行けるか不安になったとき、すれ違う人たちが、「おはよう。」「がんばっているね。」と、あいさつをしてくれました。知らない人からもらった言葉の中に、「いっしょにがんばろう」という気持ちが込められていると感じました。

すると、心がぽかぽかして、少し元気になりました。だから、ぼくも「ありがとう。いっしょにがんばろう」の気持ちを込めて、みんなにあいさつをしました。また、ぼくよりも早く登って下りてきた人が、「上の天気は晴れでしたよ。もう少し行けば、ゆるやかな道になりますよ。」と、頂上までの情報を教えてくれました。

自分には関係ないはずなのに、ぼくに情報を伝えることで、手助けをしようとしてくれているのだと思いました。ついに、ぼくが頂上まで行って下山するとき、登る人とすれ違いました。そのときぼくは、道をゆずってもらいました。山のマナーでは、登る人が優先です。だからぼくは、先に行ってもらおうと待っていました。登る人に、「お先にどうぞ。」と言われて、「なんでだろう。」と思いました。

そのとき、ぼくの後ろからたくさんの人たちが来ていることに気づきました。だから、危なくならないように「お先にどうぞ。」と、通してくれたのだとわかりました。そして、「最後まで安全に帰るぞ。」と、勇気がわいてきました。ぼくは「ありがとうございます。」と、伝えました。

山登りでは、山が危険だからこそ、周りの人を思いやることが大切だと思いました。周りの人を大切にすることが、山登りのきん張やしんどさを和らげたり、山の危険を少なくしたりするのだと思います。山登りは、登る人たちの親切の重なり合いで、安全に楽しくすることができます。

街での生活も同じだと思います。あいさつをすると、声をかけやすくなります。すると、困っている人には、勇気づける言葉をかけたり、助けたりすることができます。相手のことが分かれば、ゆずり合うこともできます。おたがいを思いやる気持ちは、山も街も安全に楽しくします。

ぼくは、ぼくの学校で、ぼくの街で、安全に楽しくくらしたいです。